

キャリアに拓く 5年生の活動

訪問先 医学部

鳥取大学附属小学校では、大学の学部や研究機関、地域の施設等と連携して学びの場をつくり、子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」を実施しています。5年生の活動の様子を紹介します。

医学部の施設において、医学部附属病院で働いておられる方々による講義と医療に関する体験活動を通して、医療機器の工夫改善について知ったり、自分の生き方や将来の職業について考えたりすることをねらいに取り組みました。

保健学科ブース

まず看護師長さんから、看護師の仕事について、医師の補助的な仕事だけではなく、患者さんの一日の生活を支えるためのあらゆる仕事があることを伺いました。そして、仕事上での間違いを防ぐために、様々な工夫をしていることも伺いました。聴診器を使った体験では、体の不調を“音の変化”で知ることができました。体の中には、外からでは聴こえない様々な“音”が鳴っていることを伺い、実際に聴診器を使って体の中の音を聴いてみました。どこでどんな音が鳴っているのか、そして、その音の変化は体のどんなサインなのかを考えることができました。



生命科学科ブース

見えている世界が上下や左右に逆転するメガネをかけて簡単な作業をする体験をしました。日常の活動で、世界の見え方と自分の体の運動がどんなふうに協調しているかを実感することができました。

また、内視鏡操作体験では、ポリープに見立てた物を取る体験活動をグループで行いました。医療者になったつもりで内視鏡を操作し、病院で活躍している医療機器がどんなものか体験することができました。特に、モニターを見ながら内視鏡を操作することが難しかったようです。担当してくださった先生に、「上手く操作できるようになるには何年もかかります。」と伺い、子供たち皆が納得した様子でした。



医学科ブース

音を体感する遊びを通して、医療に“音”がどのように利用されているかを考えました。実際に超音波装置を使いながらゼリーの中に隠された様々なものを当てるゲームをしました。自分の体の中も超音波装置を使って映像としてみることができ、とても貴重な経験をするすることができました。

今回の体験活動を通して、医学部附属病院で働く方々は、患者さんのことを考えて日々の仕事に一生懸命取り組んでおられることが分かりました。そして、患者さんの負担を軽減したり、より便利な医療機器を開発したりしようと研究にも取り組んでおられることを知ることができました。医学部や附属病院で働く方々の生き方に触れ、子供たち一人一人が自分の将来や生き方について考えることのできる学びとなりました。

